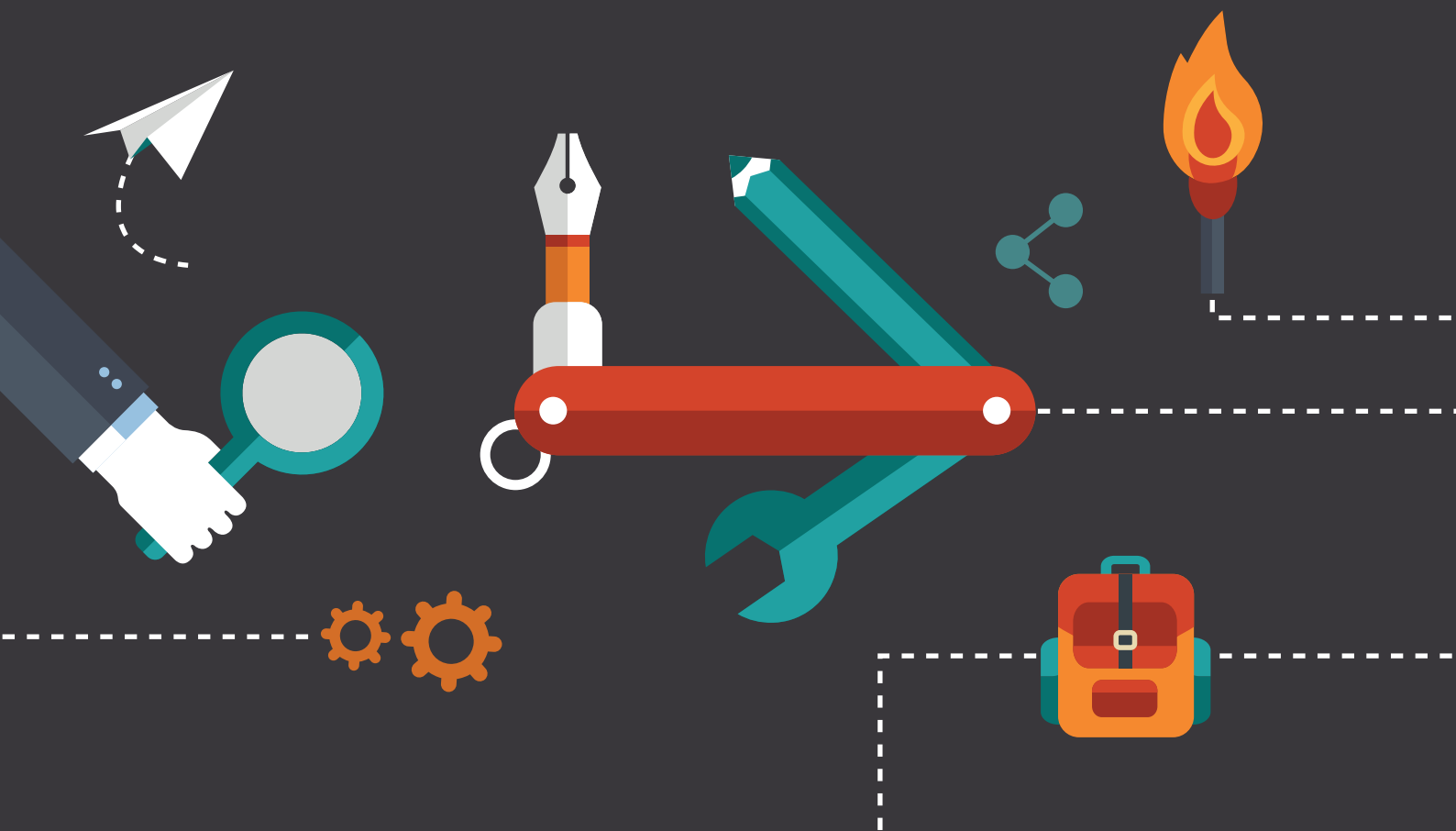




A V E P O I N T  
S H A R E P O I N T  
サバイバル  
ガイド



# 目次

1. はじめに	1
なぜ、情報の一点集約が大切なのか	1
サイロ化とは	1
2. お悩み #1 「どこにどんな情報があるか把握したい」	4
3. お悩み #2 「多すぎる情報量のせいで、SharePoint のパフォーマンスが低下するのを防ぎたい」	5
4. お悩み #3 「ユーザーに SharePoint サイトを自主的に管理してほしいが、コントロールも効かせたい」	6
5. お悩み #4 「エンドユーザーに SharePoint を活用してもらえない」	7
6. お悩み #5 「組織内のコラボレーションを促進し、SharePoint での情報共有を活性化したい」	8
7. おわりに	9

## はじめに

IT 管理者が企業にもたらす価値は、新しいテクノロジーを導入することだけではありません。自らが所属する組織のエンド ユーザーがより楽に、より多くを成し遂げることができるような環境を提供することも、IT 管理者の大切な業務のひとつです。

マーケットの高速化にともない、企業・組織にも機動力が求められる時代となっています。そのためには、**組織の情報資産を最大限に活用し、無駄のない情報管理体制を構築する**ことが欠かせません。

そして、組織全体で使用できる情報共有システムとして多くの組織に採用されているのが SharePoint です。自由度が高い・エンド ユーザーに馴染みのあるブラウザー ベースで使用することができ親しみやすい、機能性が高いなど様々な利点がある一方で、自由度のあまりの高さがネックとなり、なかなか使いこなせないという声も聞かれます。

本ドキュメントでは、SharePoint を活用した全社向け情報共有システムを構築する際に考えるべき 5 つのポイントをご紹介します。より強力な情報共有ツールの導入・利活用により、組織のコラボレーションやコミュニケーションを強化し、IT ROI を向上したいと考える方の役に立つことができれば幸いです。

### ■ なぜ、情報の一点集約が大切なのか

#### ● サイロ化とは

本論に入る前に、いまお勤めの組織には、「情報のしまい場所」がいくつあるか、数えてみてください。どのような場所が思い浮かんだでしょうか？

例えばファイル サーバーや SharePoint のように、チームもしくは個人単位で使用する「ドキュメントの共有場所」として認識されており、すぐに思い浮かぶ場所は数箇所あったのではないのでしょうか。しかし、例えば各ユーザーのデスクトップやインスタント メッセージ (IM) の会話履歴、各グループのメールボックスなどのように、一見「情報の蓄積場所」とは考えられていないにも関わらず、実は膨大な情報が存在している場所もあるのではないのでしょうか。

そして、多くの場合、個人あるいは一部のチームや部局のみで共有される情報は、ごく一部の例外を除き、意図されていない共有先にシェアされることはありません。

その結果、各部局や個人の間で矛盾したナレッジ ベースが (非公式に) 構築されていき、チーム間での意思疎通の失敗・生産性の低下の原因となることも少なくありません。また、ユーザー個人のメールボックスや IM の会話履歴など、特定のメンバーに紐づけられている情報の場合は、メンバー本人の退職や異動などでデータそのものが消去される、他のメンバーからはアクセス不可能な状態になるなどの事態が発生することも多く、**蓄積されたナレッジが他のメンバーに共有されないまま消えていく**という事態も発生します。



図 1: 組織内で発生するサイロ化の例 (1)

また、同じ組織内の各部門・部局、あるいは支店同士が **硬直した縦割り構造** として成立してしまい、コラボレーションはおろか意思疎通・情報交換さえもうましくないくなる、という事態もしばしば発生します。例えば品質向上や顧客からの苦情など、組織ぐるみで共有することで全体の利益につながり、解決策も見えてきやすい問題であっても、関連セクションが情報を抱え込んでしまうことで解決が困難となる、あるいは同じ問題が繰り返されるなどのケースも珍しくありません。

加えて、部門別に縦割り硬直してしまった組織は、「営業部は Dropbox で、開発部はメールで、総務部はファイル サーバーで文書を共有している」など、各部門によって情報共有・文書管理等のシステムを個別に持っていることも珍しくありません。また、情報共有システムが統一されていないと、お互いの持っている情報や他部署の動きを把握することができず、情報交換のスピードも低下を余儀なくされます。

この結果、**情報共有していれば得られたはずの利益が損なわれる / 失われる**ばかりか、IT 部門がセキュリティ上の問題発生を把握することができず、**情報漏えいなどの事態が起きた場合に対応が遅れる・インシデントが深刻化するなどの事態が発生する**ことも考えられます。

このように、組織が縦割り構造になっており、相互コミュニケーションが円滑にいかない状態は、**情報の「サイロ化」**と呼ばれます。



<http://www.avepoint.jp/>

